

ACCESS

アクセス

福岡・佐賀・長崎から壱岐まで

- 博多港 ⇄ 郷ノ浦港
高速船（ジェットfoil）1時間10分、フェリー2時間20分
- 博多港 ⇄ 芦辺港
高速船（ジェットfoil）1時間05分、フェリー2時間10分
- 唐津東港 ⇄ 印通寺港 / フェリー1時間40分
- 長崎空港 ⇄ 壱岐空港 / 飛行機30分



港・空港から壱岐病院まで（自動車）

- 郷ノ浦港から10分
- 芦辺港から15分
- 印通寺港から15分
- 壱岐空港から20分



長崎県壱岐病院

〒811-5132 長崎県壱岐市郷ノ浦町東触 1626 番地
 TEL 0920-47-1131 (代表)
 FAX 0920-47-5607 (代表)
<https://iki-hospital.jp/>



ひとと地域を支える
医療を目指して

病院案内

Hospital Guide



長崎県病院企業団
Nagasaki Hospital Agency

長崎県壱岐病院

NAGASAKI PREFECTURE IKI HOSPITAL

基本理念

患者さんが安心して治療・療養に専念でき、職員が希望と誇りを持って働く病院であり、先進的であたたかい包括医療ができる地域の中核病院を目指します。
また、その機能は地域全体で活用されるよう連携を密にし、若人がいつも集い、教育や研修が行われる病院を目指します。

基本方針

1. 救急医療体制の充実

常勤医師による当直体制や手術体制など二次救急医療機関としての体制整備を進めるとともに、長崎県ドクターヘリや自衛隊などのヘリ搬送を活用しながら、長崎県、福岡県域の高次機能病院との連携強化を図り、救急医療体制を充実させていきます。

2. 地域医療連携の強化

プライマリ・ケアについては、各々の医療機関が担当し、手術など専門医療が必要な二次医療については、可能な限り杵岐市内で完結できるように市内の医療機関との連携体制を構築していきます。また、患者支援センターを窓口にして市内医療機関はもとより福岡県内の医療機関との紹介や逆紹介などの医療連携も進めていきます。

3. 教育研修の充実

総合診療医の専門医制度へ向けて、研修体制を構築するとともに、平成27年3月に完成した研修センターを拠点に、研修医や若い看護師が地域医療を学べる場をつくり、いつでも若者が集う病院を目指します。

4. 地域包括ケアシステムの構築

高齢化社会を迎え、国をあげて取り組む「地域包括ケアシステム」の構築を推進するため、医療と福祉の連携強化やITの活用を図り、在宅医療・ケアを充実させます。

5. 予防医学の推進

これまでの取り組みのさらなる連携強化を図るため、福岡大学・杵岐市・杵岐医師会の3者で令和元年11月6日に「保健・医療に関する連携協定」を締結し、CKD(慢性腎臓病)など生活習慣病に対して、予防対策の推進及び重症化予防に力を入れています。
また、健診事業の推進と消化器内視鏡を中心とした癌の早期発見治療を目指します。

院長インタビュー

当院は杵岐市唯一の公的医療機関として地域中核病院機能を果たしています。救急医療への対応をはじめとする急性期医療を中心とし、各診療科が密に連携し医療にあたっています。

また、糖尿病や消化器、循環器、呼吸器といった専門領域の診療にも力を入れ充実してきました。さらに物忘れ外来、フットケア外来、骨粗鬆症外来、外来化学療法チームや緩和ケアチームなどの専門外来も開設し、きめ細かく患者さんのニーズに対応しています。

当院は、若者が集う病院を目指し、教育研修にも力を入れております。最近では多くの若者が勉強に仕事に集まってくれるようになりました。そこで離島でしかできない医療、離島だからこそできる医療を目指しています。もちろん長崎や福岡の病院とも連携強化を図り、医療や看護の質を高めています。メディカルスタッフも充実してきました。医療を提供するだけでなく、学べる場としても環境を整えておりますので、もし一緒に働いてみたいと思われる方は、ぜひ一度見学にお越しください。心よりお待ちしております。



長崎県杵岐病院
院長 向原 茂明

病院沿革

明治 28年	杵岐郡立病院創設
大正 12年	郡制廃止に伴い杵岐総村組合に移管
昭和 23年 4月	一部事務組合杵岐広域圏町村組合設立
平成 16年 3月	杵岐郡4町合併により杵岐市誕生、杵岐市立杵岐公立病院となる 国立療養所杵岐病院の移譲を受け、「かたばる病院」開院
平成 17年 5月	新病院開院、「杵岐市民病院」に名称変更
平成 23年 12月	杵岐市長が12月定例会行政報告にて長崎県病院企業団加入方針を表明
平成 25年 4月	向原総病院長就任、かたばる病院の療養病床48床を市民病院4階に機能統合
平成 26年 10月	地域包括ケア病棟開棟(病棟再編)
平成 27年 3月	研修センター竣工(地域医療研修機能向上施設整備事業)
平成 27年 4月	長崎県病院企業団に加入し、「長崎県杵岐病院」に名称変更
平成 27年 10月	電子カルテ導入
平成 29年 7月	認知症疾患医療センター指定
平成 30年 2月	福岡県の福岡和白病院と「あじさいネット」接続(画像診断)
平成 30年 4月	DPC対象病院
令和 元年 11月	福岡大学・杵岐市・杵岐医師会の3者による保健・医療に関する連携協定締結(CKD関連)
令和 2年 2月	長崎県内初の新型コロナウイルス感染症確認(長崎県コロナ重点医療機関指定)
令和 2年 12月	認定看護師の誕生(感染管理、皮膚・排泄ケア、がん化学療法)
令和 5年 8月	電子カルテシステム更新(外来番号呼び出し機能・自動精算機導入)

長崎県病院企業団とは

長崎県病院企業団は、長崎県と島原地域、五島地域、対馬地域及び杵岐地域の市町(1県6市1町)が一体となって病院を経営することにより県民の健康な生活を確保することを目的として設立された地方自治法上の特別地方公共団体(一部事務組合)です。現在、長崎県病院企業団では、8病院・3附属診療所の病院運営にあたっています。



「あじさいネット」とは



長崎県杵岐病院は、特定非営利活動法人長崎地域医療連携ネットワークシステム協議会「あじさいネット」に情報を提供しております。院長である向原茂明は「あじさいネット」の理事として、同協議会の組織運営に携わっております。

暗号化したインターネットを駆使し、医療機関同士や薬局などをつなぎ、患者さんの同意のもと診療情報を、医師、薬剤師、看護師などが密に把握することで、診断、治療など診療の向上に役立っています。現在、ITを使った医療ネットワークとしては、全国最大規模のネットワークとなっています。

病院基本概要

病院名	長崎県病院企業団 長崎県吉岐病院
所在地	長崎県吉岐市郷ノ浦町東触 1626 番地
開設者	長崎県病院企業団 企業長 八橋 弘
管理者	院長 向原 茂明
施設	平成 17 年 3 月竣工（建築面積 3,939 m ² 、延べ面積 12,194 m ² 鉄筋コンクリート造、地上 4 階、地下 1 階）
病床数	一般 120 床、療養 48 床、結核 6 床、感染 4 床、精神 50 床（平成 23 年 7 月～休床中）計 228 床
診療科	内科、精神科、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、腎臓内科、糖尿病・内分泌内科、リウマチ・膠原病内科、血液内科、小児科、外科、乳腺外科、整形外科、脳神経外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻いんこう科、リハビリテーション科、放射線科、麻酔科（全 22 診療科）

建物構成

4 階	療養病棟 48 床／患者支援センター／医療安全管理・感染管理室／MEセンター
3 階	地域包括ケア病棟 43 床／急性期病棟 45 床（内科系：感染症病棟 4 床含む）結核病棟 6 床／集中治療室等
2 階	急性期病棟 36 床（外科・産婦人科・泌尿器科・眼科系）／腎センター（透析）／集中治療室／手術室 3 室／分娩室等／管理棟（院長室ほか）
1 階	待合ホール／受付・会計／薬局／各科診察室／救急処置室／内視鏡室／検査科／入院・検査説明室／放射線科／リハビリテーション室／健診室／事務室／売店
BF1 階	栄養管理室／厨房／中央監視室／霊安室／車庫

認定施設一覧

救急告示病院・二次救急輪番制病院・災害拠点病院・長崎県 DMAT 指定病院・がん診療離島中核病院
第二種感染症指定医療機関・協力型臨床研修指定病院・認知症疾患医療センター

患者さんと医療との「つながり」を
深める病院を目指します



健診部門

健診等の予防医療は当院が掲げている診療機能の大きな柱のひとつであり、特定健診、事業所健診、人間ドックをはじめ利用者は年々増加しています。

疾病構造の変化に伴い、がんの早期発見と共に、生活習慣病（慢性腎臓病（CKD）、糖尿病、高血圧性心疾患）の予防対策は益々重要となっており、これらの予防対策の推進、重症化予防に取り組みながら、さらに行政との連携体制を構築することにより、市民の健康寿命の延伸に貢献していくことを目指しています。



診療支援部門



治療検査センター

治療検査センターは、「腎センター」と「内視鏡・放射線科検査部門」が統合した部門です。透析治療、内視鏡検査・治療、透視を利用した特殊検査・治療等を受けられる患者さんに安心、安全な医療が提供できるよう、スタッフ一人ひとりが丁寧な看護に心掛けています。



放射線科

医療技術の進歩に伴い、放射線診療技術も高度化と細分化が進み、放射線業務が益々多岐にわたるなか、検査並びに治療を迅速かつ安全に行い、医療被曝軽減に努めています。「患者さんの立場に立った最良の医療画像の提供、チーム医療への貢献、安全な医療の提供」を目指し、努力を重ねています。



臨床工学室

臨床工学室では、生命維持装置を含む医療機器の保守点検業務を行っています。常に整備された状態を維持し、かつシームレスな運用で医療現場をサポートしています。臨床工学室で医療機器を一元管理することで、安全性と効率性を図り最善の保守管理を目指しています。



手術室

手術室では、外科、整形外科、産婦人科、眼科、ペースメーカー植え込み術などの手術を実施しています。また、手術以外でも外来診療や入院検査案内、救急外来業務も行っています。手術に関連する看護のみならず多岐にわたる知識や技術を習得できる環境を有しています。



検査科

臨床検査科では、迅速で正確な診察前検査、また診断・治療に繋がる検査を目指し、365日 24 時間体制で対応しています。また、チーム医療を実践するため、ICT（感染制御チーム）活動等で多職種と相互に協力しながら業務を推進しています。



栄養管理室

栄養管理室は、診療技術部門の一部門として、「医食同源」を合言葉に、疾病の早期回復、合併症の予防を図るため、入院患者さんの栄養面のサポートを行っています。当院では管理栄養士と調理師が協力し、「入院中の楽しみの一つ」である食事を患者さんの症状や栄養状態に合わせ提供しています。



薬剤科

薬剤科では、患者さん中心の医療を目指しており、患者さんの立場を大切にし、対話しながら、医療事故の防止と安心できる薬物療法に貢献していきます。また、常に薬剤師としての知識や技術の向上に努め、チーム医療の一員として、さらなる専門性の発揮に努めていきます。



リハビリテーション科

当院では、疾病発症後早期からの機能回復訓練の介入を心がけ、回復期を中心としたリハビリを実施しています。対象として小児から高齢者まで幅広い年齢層、疾患、介入時期など多岐にわたって対応し、多職種との連携を図り早期の生活復帰を目指し、地域に信頼されるリハビリを展開しています。



患者支援センター

患者支援センターは、患者さんの医療機関への受診・入院・退院・転院をスムーズに行えるよう、医療機関、介護施設、行政、訪問看護ステーションなどと連絡調整を行い、患者さんとの関係機関をつなぐ役割を果たしています。また広報誌の発行や地域医療連携研修会を開催し情報発信を行っています。

壱岐病院が目指す医療



医療安全管理室

医療安全管理室では、専従のスタッフを配置し、院内研修会や院内ラウンドなど、安全な医療を提供できるように日々活動しています。また、スタッフ間で情報を共有し、医療事故防止に努めるとともに島外での研修会や医療機関相互の評価に積極的に参加し、医療安全のレベル向上を図っています。



感染管理室

感染管理室は、医療に関わる患者・家族・訪問者や医療従事者など全ての人を医療関連感染から守るため、組織的活動を計画・実践・分析・評価する部門です。医師、看護師、薬剤師、検査技師、事務職が感染対策チーム (ICT)、抗菌薬適正使用支援チーム (AST) を編成し、活動をサポートしています。



診療看護師

看護の視点と医学的観点の双方の視点を備えもつ「診療看護師」として、離島地域に根差したチーム医療における職種連携の橋渡しの役割を担っています。診療看護師として、患者さんと患者さんを取り巻く環境を看る・診ることができる「全人的看護」をモットーとしています。

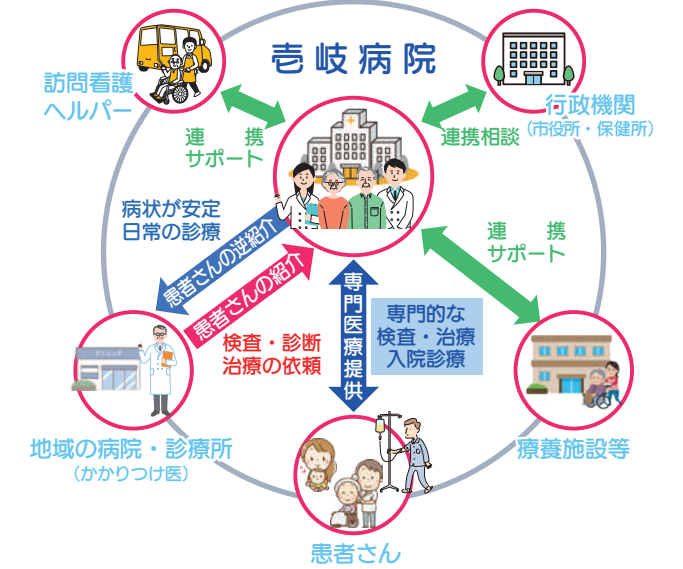
専門外来の推進

壱岐病院では、循環器、腎臓、肝臓、糖尿病、血液、リウマチ、骨粗しょう症、フットケア、認知症などの専門の外来診療を推進しており、外来化学療法、緩和ケア療法などのチーム医療の機能強化も図っています。令和6年4月より腎臓内科、糖尿病・内分泌内科、リウマチ・膠原病内科、血液内科、乳腺外科の5診療科の標榜を追加し、専門治療の機能強化を図り、可能な限り当院又は市内で完結できる診療機能を構築しています。



地域医療連携の強化・推進

病気の初期診療については、各々の医療機関が担当し、手術など専門的医療が必要な二次医療については、可能な限り壱岐市内で完結できるように市内医療機関や療養施設、行政機関等との連携体制を構築しています。また、患者支援センターを窓口として、市内医療機関はもとより、福岡県内の医療機関との紹介や逆紹介などの医療連携も推進しております。



看護部のご紹介

看護部の理念 | 患者さんの意志を尊重し 信頼と思いやりのある 看護・介護を提供します



NURSING DEPARTMENT

当院は離島の救急医療を担う中核病院です。教育体制の充実をはかり、現在は企業団キャリアラダーを取り入れています。患者さんが「住み慣れた壱岐」で安心して暮らせるように、一人ひとりに寄り添った看護を大切に、看護部もスキルアップに努めています。診療看護師や認定看護師も活躍している魅力的な病院です。

看護部長 鋸崎 くみ子

基本方針

- その人らしさを尊重した、患者中心の看護・介護を提供します
- チーム医療を推進し、地域と連携した看護・介護を提供します
- 自らの役割に責任を持ち、専門職として自己研鑽に努めます
- 看護の立場で経営に参画します
- 予防医療の推進に努めます

救急医療体制の充実

常勤医師による当直体制を整備し、壱岐市内（島内）の救急搬送の約8割の救急患者を受け入れています。また、長崎県ドクターヘリや海上自衛隊のヘリ搬送を活用しながら、長崎県はもとより、福岡県域の高次機能病院（大学病院や救命救急センター）との連携強化を図り救急医療体制を充実させています。



教育研修体制の充実

研修医をはじめ、若い医師が地域に根差したあたたかな医療現場で学べるよう、環境を整えています。研修管理型病院と連携し、研修医の受け入れを行っています。また、医師だけでなく看護学生や理学療法士、医学部の学生さん等も実習や研修に来て頂いています。

研修医受入機関実績

長崎医療センター、福岡市民病院、九州大学病院、福岡大学病院、北里大学病院、聖路加国際病院、関門医療センター、杏林大学医学部附属病院、山口大学医学部附属病院、兵庫医科大学病院



平成 27 年に完成した研修センターには、研修医や看護学生等が宿泊できる施設と様々な研修会やセミナーが開催できる会議室や談話室があります。

壱岐病院 看護部新規採用職員研修

4月	オリエンテーション、電子カルテ操作 採血・注射の練習
5月	口腔・気管内吸引演習・PEG の管理 血糖測定・インスリン療法について
6月	輸液・シリンジポンプの取り扱い 導尿・膀胱留置カテーテル挿入の演習
7月	3か月目の振り返り・BLS 研修
8月	気管挿管介助・急変時の対応
9月	心電図モニター・DC の取り扱い 輸血の管理
10月	6か月の振り返り・麻薬の管理
11月	フィジカルアセスメント
12月	呼吸器の取り扱い
1月	エンゼルケアの演習・グリーンケアについて
3月	1年間の振り返り（発表）

長崎県病院企業団 看護部理念

良質な医療と看護を通して郷診郷創に貢献する

